

泉州圏域の地域連携薬局の現況について

～泉佐野保健所の活動と今後の対策～



1

●地域連携薬局数の推移（泉州圏域）

	中学校区数※	R3.8.1	R4.7.31	R5.7.31	R6.7.31	R7.10.31	充足率 (R7.10.31)
総数	51	3	8	11	17	13	25.5%
岸和田市	11	0	0	0	3	3	27.3%
泉大津市	3	0	0	0	0	0	0.0%
貝塚市	5	0	0	0	1	1	20.0%
泉佐野市	5	0	1	3	3	1	20.0%
和泉市	10	1	4	2	3	2	20.0%
高石市	3	1	1	2	2	1	33.3%
泉南市	4	0	0	0	0	0	0.0%
阪南市	4	0	1	2	2	2	50.0%
泉北郡忠岡町	1	0	0	0	0	0	0.0%
泉南郡熊取町	3	0	0	1	2	2	66.7%
泉南郡田尻町	1	1	1	1	1	1	100%
泉南郡岬町	1	0	0	0	0	0	0.0%

※中学校区数は、公立中学校（公立義務教育学校を含む）の数
 (出典) 令和7年度公立中学校・公立義務教育学校一覧表(令和7年4月1日時点)
<https://www.pref.osaka.lg.jp/0180080/shochugakko/jyusho/index.html>

2

●地域連携薬局を廃止した薬局へのアンケート調査の実施

対象：地域連携薬局を廃止し、現在、認定取得していない薬局
 (8軒のうち、1軒は薬局を廃業したため、7軒に対して実施)

期間：令和7年9月8日～令和7年10月16日

方法：個別訪問で趣旨説明のうえ、アンケート用紙により回答

回答数：7件(回答率100%)



3

●アンケート調査の結果

Q1：認定の更新を行わなかった(行えなかった)理由は？(複数回答可)

A：	申請手続きの失念	1	認定期間(1年間)が短い	2
	更新費用が高額	2	認定取得によるメリットを感じなかった	2
	申請書類等作成・準備負担が大きい		休日及び夜間の調剤応需が困難	1
	構造設備(相談席等)確保が困難		居宅等の調剤・指導等の実施が困難	
	地域ケア会議等の参加が困難		無菌製剤処理の実施体制確保が困難	1
	勤務薬剤師の負担(残業等)が増えた		常勤薬剤師(勤続1年以上)の確保が困難	1
	健康サポート薬局に係る研修を修了した常勤薬剤師の確保が困難	2	トレーシングレポートの実績達成(月平均30件以上)が困難	1
	地域包括ケアシステムに関する研修を全薬剤師に受講させることが困難		地域の他医療機関に対する医薬品の適正使用に関する情報提供の実施が困難	
	その他(意見含む)			
	<ul style="list-style-type: none"> • 本社の方針で継続を断念した(認定期間や更新費用の観点) • 認定期間がもう少し長ければ助かる 			

※トレーシングレポート(服薬情報提供書)：薬局薬剤師が患者から得た情報を医師に伝えるための文書。緊急性はないものの、医師に伝えておくべき内容を報告する。

4

●アンケート調査の結果

Q2：地域連携薬局の認定を受けて良かった点は？(複数回答可)

A：

他職種や他医療機関、行政機関と新たな繋がりが出来た	3	日々の気付き事項が増えた	
患者やその家族、関係医療機関(従事者)からの相談・依頼が増加した	1	ヒヤリ・ハットやインシデント事例が減った	
患者個々の状況把握や聴き取りについて、より深く注意を払えるようになった		売上・利益が増加した	
勤務薬剤師のスキルアップや意識向上に繋がった	3	経営陣と従業員間、従業員同士のコミュニケーションが活弁になった	
特になし	3		
その他 ・トレーシングレポートへの意識が深まり、勤務薬剤師がトレーシングレポート作成に慣れた ・認定を更新している薬局が感じているメリットを知りたい			

5

●回答いただいた薬局の属性

薬局開設者：7軒全て法人

認定廃止タイミング：4軒が薬局開設者変更の際に認定廃止となった
(開設者変更時に地域連携薬局認定を未申請)



内3軒が勤務薬剤師等の体制が引き継がれていた
→認定取得することが出来た可能性

6

●泉佐野保健所薬事課の対策

減らさない対策：認定薬局が経営者変更する場合
→新経営者への働きかけ(廃止を防いだ事例有り)

増やす対策：地域連携薬局認定の存在や認定要件を知らない薬剤師も多い
→啓発パンフレットを用いて、通常立入検査時に啓発を実施

各地域薬剤師会においても、引き続き積極的な認定取得をよろしくお願いいたします！！



©2014 大阪府もずやん 7